

角間丘陵におけるガマズミ類（スイカズラ科）5種の 空間分布とフェノロジーの比較研究

横山将光¹・中村浩二²

¹〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学大学院自然科学研究科; ²〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学
自然計測応用研究センター

Masamitsu YOKOYAMA¹ and Koji NAKAMURA²: Spatial distribution and phenology of five *Viburnum* species
(Caprifoliaceae) on Kakuma hills, Kanazawa city.

ガマズミ属の多くは集房花序で、果実は核果で赤色または黒色に熟し、ツグミ（小南、1987）などにより種子が散布される。これまでに訪花昆虫相（大森、1993）、開花・結実・散布（野間、1988）、着花数と花期（大森、1999）、樹形形成過程（依田、1993）、ヤブデマリの繁殖・成長様式（甲斐、2000）などが調べられている。本研究では金沢大学のコナラ・アベマキが優占する「里山ゾーン」（約74ha）で、ガマズミ属の集団の構造（空間分布、齢構成、サイズ構成）、繁殖過程（開花、結果）を2年間（2001年と2002年）にわたり調査した。

対象種：ガマズミ (*Viburnum dilatatum*, GA と略す)、コバノガマズミ (*V. erosum*, K)、ミヤマガマズミ (*V. wrightii*, M)、ヤブデマリ (*V. plicatum*, Y)、ゴマギ (*V. sieboldii*, GO)。

調査項目と方法

1. 空間分布：尾根部分に設定した調査ルート沿い（1.3 km）にみられた株を個体識別マークするとともに位置をマッピングした。
2. 齢構成、サイズ構成：一部の個体を選び、樹齢（芽鱗痕により推定）、太さ（高さ20 cmの位置）、樹高を測った。
3. 繁殖過程：株あたり花序数、花数、果実序数、果実数、果実の食害要因と被害度を調べた。
4. 経時変動：開花と果実数の季節変化と年変化（2001年と2002年の比較）を調べた。

結果

1. 個体数は多い順に K、GA、M、Y、GO であった。
2. ミヤマガマズミの齢構成は最高26年齢で、14～18年齢の株が最も多かった。
3. 両年とも開花フェノロジーは早い順に M、K、GO、Y、GA となっていた。
4. 2002年の開花開始はどの種も前年よりおよそ8日～20日早かった。
5. 2002年の結果開始は GO、Y は前年とほぼ同じで、M、K、GA は1～2ヶ月早かった。
6. 昆虫による果実の食害度はガマズミ属の種や個体に違いがみられた。